

2022 年度 ミネソタ州立大学マンケート校らとの Writing Group  
活動報告書

報告日：2023 年 8 月 4 日

分野名：母性看護学・助産学分野、慢性期成人看護学分野

氏名：近澤幸、間中麻衣子、笹野奈菜、飛田伊都子

## 1. 活動内容

- ・ 参加大学：ミネソタ州立大学・カンタベリー大学・グリフィス大学・大阪医科薬科大学
- ・ 実施日程：2023 年 2 月 8 日～4 月 26 日の毎週水曜日
- ・ 実施時間：9:00～9:50 (2022 年 2 月 22 日～ 8:00～8:50)
- ・ 実施内容：

本企画は、ミネソタ州立大学の Hans 先生によるコーディネートで、論文を国際雑誌に投稿することを目指す企画である。Zoom を用いて週 1 回の頻度で 12 回交流しながら論文執筆を進めた。

参加メンバーはミネソタ州立大学から 7 名、カンタベリー大学から 2 名、グリフィス大学から 1 名、本学から 5 名であり、時々参加するメンバーも歓迎された。著書「Writing your journal article in twelve weeks」の内容に沿って進行された。初回は自己紹介と自身の研究を紹介した。以降、各自の研究について、互いに状況を報告し合った。研究計画書の書き方、引用・参考文献の選択、投稿雑誌の選択など、論文投稿までのプロセス全般について参加者間で意見交換をおこなった。

## 2. 所感

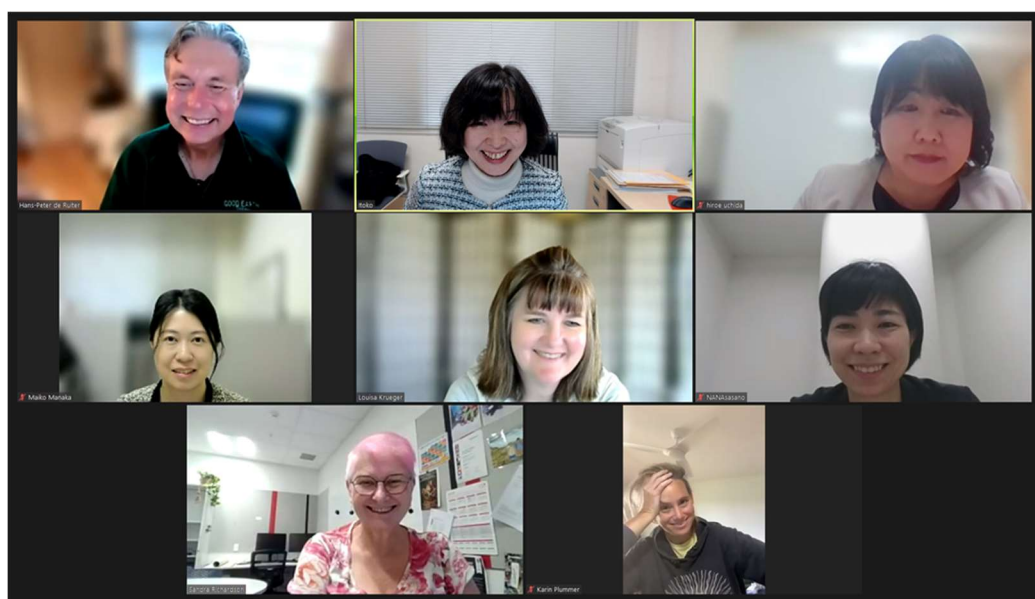
本企画に参加させていただき大変貴重な経験をさせていただきました。

国際雑誌への投稿の重要性は分かっているながらも、なかなか投稿に至らない状況にありました。業務の都合上参加できない時もありましたが、毎週水曜日の朝の国際交流の時間は、研究を遂行するうえで刺激となり、動機付けに繋がりました。

参加においては、英語への苦手意識が強く、緊張もありましたが、参加者の皆様の温かい雰囲気の中、安心して参加することができました。その場で、自分の研究について英語で語れるだけの英語力はなかったため、実施している研究の計画書や要旨を英語で準備して臨むようにしました。意見交換にはなかなか参加することができませんでしたが、徐々に参加者の皆さんがどのような議論を交わしているのか、部分的にわかるようになり、自分の論文執筆の参考になる部分が多くありました。

国際雑誌への投稿論文のプロセスで悩んだり、論文化が進まなかったりする研究者は多くいると思います。本企画に参加することは、そのプロセスにおけるアドバイスをいただいたり、意見交換をしたりできる貴重な機会になると思います。このような機会をいただけて良い経験になりました。

末筆になりましたが、本企画を運営いただきました国際交流委員会のご担当者様に心より感謝申し上げます。



2022年度 第2回 Writing Group 最終日の写真